

平成 30 年度第 3 回熊野市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成 31 年 2 月 21 日（木） 午後 1 時 30 分から
2. 場 所 文化交流センター 多目的ルーム
3. 出席者 熊野市長 河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長 大久保委員、糸川委員、高見委員、北野委員
4. 事務局関係
教育委員会事務局
岡本総務課長、楠学校教育課長、雑賀社会教育課長補佐
太田総務課長補佐、小瀬総務課庶務係長
市長公室
松岡市長公室長
総務課
尾中総務課長
5. 事 項
(1) について

岡本総務課長 定刻になりましたので、ただいまから平成 30 年度第 3 回熊野市総合教育会議を開催いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます、教育委員会総務課長の岡本でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議開催にあたりまして、河上市長から開催のご挨拶をお願いいたします。

河上市長 教育委員の皆様には、お忙しい中、平成 30 年度第 3 回の総合教育会議にご出席賜り、誠にありがとうございます。

また、日頃より当市の教育行政の推進につきまして、ご尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

本日の会議におきましては、今年度の重点施策について 1 月末現在の取組状況と今年度の成果と課題についてご報告させていただきます。

最終的な取組の結果につきましては、次年度の第 1 回総合教育会議でのご報告となりますが、ぜひとも、来年度にむけて、忌憚のないご意見やご提言を頂戴できればと考えております。

今、我が国は、世界一の長寿社会を迎え、人生 100 年時代とされています。こうした時代において、若者から高齢者まですべての人が活躍し、安心して暮らすことのできる社会をつくるためには、幼少期から生涯を通じた学びの場と機会を提供し、「人づくり」・「いきがづくり」を進めることが重要となっています。

今年度の学力向上の推進の中にもあります、ICT 教育の推進については、まさしく、将来を担う子ども達の生きる力を育み、生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化することができるツールとして、大変重要な事業であると考えています。

そのため、来年度につきましては、パソコン教室以外に、3 人に 1 台のタブレットの導入、また、小規模校では児童・生徒一人一台のタブレットを導入するなど、学校における ICT 環境の整備を行いながら、アドバイザー兼支援員の配置など、教員への授業支援を行っていききたいと考えています。

また、生涯学習の分野につきましても、「地域における IoT の学び推進事業」として、ICT に関する指導者の育成をはじめ、子どもたちが学校の授業だけではなく、IoT、AI 時代を生き抜くために必要なスキルを課外でも学び、さらに ICT に対する関心を高めることができる事業を実施したいと考えております。

来年度につきましては、平成 27 年度に策定しました教育大綱の最終年となっております。平成 32 年度からの教育大綱の改定も控えておりますので、今年度の取組についての課題や成果につきましては、しっかりと来年度に繋ぎ、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」の支援と、市民の皆様の豊かな学びのための環境づくりを行ってまいりたいと考えておりますので、委員の皆様のお力添えをお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

岡本総務課長

ありがとうございました。お手元に配布の資料の確認をさせていただきます。本日の事項書と平成 30 年度第 3 回熊野市総合教育会議、資料の 3 種類となっております。よろしいでしょうか。

それでは、事項書 2 の (1) 平成 30 年度主な重点施策の進捗状況と現時点の成果・課題について移らせていただきます。

平成 30 年 5 月に『第 1 回熊野市総合教育会議』を開催しまして、5 つの重点施策と 23 の主な取組内容につきまして、それぞれご説明し、協議を行っていただきました。また、11 月には『第 2 回熊野市総合教育会議』を開催いたしまして、上半期の取組状況とその後の取組についてご説明し、協議をさせていただきました。

今年度も残り少なくなってきましたが、1 月 31 日までの取組状況

や現時点での成果や課題について説明をさせていただきます。重点施策 1 つが終わるたびに、ご質問やご意見等をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、1 ページの重点施策 1 学力向上の推進の進捗状況と現時点の成果と課題について、でございます。資料につきましては、1 ページから 12 ページとなっております。めざす姿としましては、恒常的に授業改善に取り組み、それぞれの力量を高め合おうとする職員組織。目標を持って授業に臨み、深い学びと自己の変容を実感している児童生徒であります。指標といたしまして、2 回目の「みえスタディ・チェック」の結果において、県平均を基準として 2 ポイント以上の伸びが見られる。現時点での達成状況は、ご覧の通りとなっております。この他に、これまでの推移等は資料の 1 ページから 3 ページに掲載しております。

取組事業といたしまして、学力向上支援事業であります。平成 30 年度取組状況、1 月 31 日までですけれど、平成 30 年度研究指定校は 4 校で、ご覧の学校でございます。「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」等の分析結果から、学習課題を明らかにし、アドバイザー及び指導主事が指導助言を行い、授業方法の工夫改善を進めております。外部講師の派遣回数は、ご覧の通りでございます。2 年目の学校につきましては、公開授業研究発表会の開催をしております。飛鳥小は 12 月 5 日、入鹿中は 1 月 21 日に開催いたしております。現時点の成果・課題でございますが、中学校国語で 7.9 ポイントの伸びが見られましたが、他の 3 科目では、目標に達する伸びは見られませんでした。今後各教科・各学校ごとの課題を明らかにし改善に努めます。飛鳥小学校では、算数科の複式授業において「主体的対話的で深い学び」の視点での授業改善を行いました。入鹿中学校では、言語活動に焦点を当てて全校体制で研修に取り組み、生徒が一時間の見通しを持つことができる授業構成により授業を行うことができるようになりました。外部講師の指導を受けることで、振り返りと正対しためあての設定や、言語活動の充実が図られるようになってきました。2 年目の研究指定校による公開授業研究発表会の開催等を通し、指導の工夫、改善、充実等の研修成果を市内の各小中学校に発信しました。全ての学校・学級において、学習内容の定着のために、さらに質の高いめあてを設定した授業を実施していく必要があります、としております。

次に 2 ページに入らせていただきます。取組事業は学力向上推進研修事業でございます。平成 30 年度取組状況につきましては、学力向上推進研修会の開催、講師は三重大学教育学部の森脇教授でござ

います。第1回は5月29日に。第2回は8月24日。第3回は1月29日に開催しております。先進校視察といたしまして、11月26日に津市立香良洲小学校に訪問いたしております。現時点の成果と課題でございます。3回の研修会を通し、児童・生徒の学力の定着のための具体的な授業の工夫改善に向けた研修を実施することができました。第2回学力向上推進研修会では課題のある算数・数学においてS-P表（学校別解答状況整理表）を活用し、学級と個人の分析の仕方の研修を実施し、各校の課題を明確にすることができました。新学習指導要領の実施に向けて、各校の取組の進捗状況を把握しながら指導していく必要があります。小学校への視察が続いていることもあり、小・中両方を一度に訪問できる視察先の検討を行います。先進校視察では、習熟度別算数の授業を参観することで、習熟度別授業の進め方について理解を深めることができました、としております。

3ページをご覧ください。取組事業は、地域未来塾事業でございます。取組状況につきましては、地域未来塾の実施ということで、対象といたしまして、市内小学校4年生から6年生の児童。開催日は、夏休み期間中は12日。冬休み期間中は3日。会場は、ご覧の場所で、講師はこの地域出身の教員を目指す大学生等でございます。参加児童数76人で延べ515人となっております。現時点の成果と課題でございます。昨年度の参加者は対象学年全体の20%でしたが、本年度は22%とわずかですが増加しました。来年度も、募集の方法を工夫するなどして、参加者のさらなる増員を目指します。開催日数は昨年度より3日少なくなりましたが、のべ参加児童数は100人増加しました。アンケートでは、98%の児童が「参加して楽しかった」と回答しています。本年度は学習室を常に2つ確保し、1学年は別室で学習できる体制を整えたことで、落ち着いて学習に取り組むことができました。日程によっては、講師を確保するのが難しい日もありました。特に、夏季も冬季も、開催日の初日は多くの大学生がまだ帰郷しておらず、講師が手薄な状況での開催となりました。開催日の設定についてはさらなる検討が必要です、としております。

4ページにまいります。取組事業は、グローバル体験事業でございます。取組状況でございますが、グローバル・スポーツ・イベントについて、開催日は6月3日、場所は井戸小学校体育館。内容は、主にアメリカで行われている楽しいスポーツイベントを、ALTの英語のお話を交えながら行っております。参加児童数は、23人です。夏休み英会話教室につきましては、開催日数が2日で、場所は文化交流センター。内容といたしまして、ALTが考案したゲームなどを通し、

楽しく日常の英会話を学びました。参加児童生徒数は、6人で延べ12人でございます。ウィンター・フェスティバルにつきましては、12月10日に文化交流センターで開催いたしました。内容は、ゲームやクラフトなどを通して、楽しく英語の世界に触れる体験をしました。参加児童生徒数は、68人ございました。現時点の成果と課題でございますが、3回のイベントを通して、参加した子ども達は、英語の世界を楽しく体験しました。アンケートでは、全ての児童が「楽しかった。」と回答しました。ウィンター・フェスティバルは、市ALT4人と他市町のALT計16人のスタッフで実施しました。その結果、たくさんのブースを開設することができ、子ども達は様々な外国の文化に触れることができました。夏季休業中に実施した英会話教室の参加者が少なかったため、今後、児童生徒が参加しやすい内容にしていく必要があります。今年度は「ウィンター・フェスティバル」に中学生2名がボランティアスタッフとして参加しました。今後さらに多くの中学生ボランティアの参加を呼びかけていきます、としております。

最後に、ICT教育推進事業でございます。取組状況でございますが、プログラミング教育の実施につきまして、三重大学教育学部の須曾野教授の支援を受けながら、新鹿小中学校・金山小学校・飛鳥中学校をモデル校とし、その他希望する学校と併せて授業を実施しました。ICT教育推進委員会の開催では、計3回開催いたしております。草津市教育委員会への視察につきましては、7月26日にICT教育推進に係る教育委員会の取組の聴き取りを行っております。そして、草津市立常盤小学校への視察につきましては、11月22日に学校におけるタブレット等の活用状況の視察をさせていただきました。現時点の成果と課題でございます。小学校において、三重大学との連携のもと、タブレットを外国語の授業で活用し、文字と発音の関係性を学ぶなど、ICT機器を活用した授業改善にも取り組んでいます。来年度は各学校へのICT機器の導入も予定されていることから、各学校における学年ごとの指導事項や到達度目標など、どの学校も同じように取り組むことができる指導計画を提示し、学校の取組を指導・支援していきます。ICT教育推進への指導助言を行うアドバイザー兼支援員を配置することで、管理職のマネジメント能力や教員のICT活用能力を高める必要があります。先進的な取組をしている草津市の状況を視察することができ、本市のICT教育推進に向けての計画策定に大いに参考になりました。常盤小学校の視察においては、どの学年でも発達段階に応じてICT機器を効果的に活用し、児童の興味関心を高める授業を参観することができ、タブレット等が導入

された場合の有効な活用法を学ぶことが出来ました、としております。

以上、重点施策 1 学力向上の推進の進捗状況と現時点の成果と課題について、説明・報告させていただきました。ご意見やご質問がありましたら、よろしく願いいたします。

北野委員

3 ページの学力向上推進の地域未来塾について、昨年度より参加率が少し上がっているんですが、できればもう少し受講生がおられると、熊野市全体の底上げということで、何かもっと良い施策があればということと、保護者の方がしっかりとご理解していただいているのかというところをもう一度検討し直した方がよろしいのではないかと思いますのでよろしくお願いします。

河上市長

資料の 10 ページのところで、入鹿小学校は対象者 11 人で 1 人というのはあまりにも数字が低いのと飛鳥小学校も対象者が 5 人で 1 人ですよね。やっぱりこういうところは、何らかの形で学校の協力もいただいて努力していただきたいと思います。

楠学校教育課長

地域未来塾の参加率を 3 割の目標ということで、案内などカラーにしたり校長会で学校長に協力の依頼をしたりと工夫を重ねているのですが、なかなか参加者の増には達成できない状況です。やはり、これが課題だと考えております。来年度は、学校にも協力をいただいて参加者を 3 割に近づけるよう取り組んでいきたいと思っております。

倉本教育長

学校によってまた、年度によって偏りがある傾向があります。実施前には、学校や保護者への周知は行っているのですが、なかなか参加率が伸びていない状況がありますので、今一つ次年度に向けて、参加意欲を持たせて積極的に参加するような手立てを講じていかなければならないと思っております。

糸川委員

学力向上支援事業の中の指定校が 4 校というところで、指定校ではない学校でも同じように学力向上の取組はされていますか。

楠学校教育課長

全小中学校で取り組んでおります。ただ、この事業として指定校を毎年 2 校選択させていただきまして、年 4 回アドバイザーの派遣をしております。

糸川委員

めあてと振り返りという事業を始められてずいぶん経っていると思うのですが、授業改善というのは、めあてと振り返りを立てることが授業改善になっている訳ではなくて、めあてを立てて勉強するために授業改善をしていくということが目標なんですよね。めあてと振り返りを立てることが授業改善ではなくて、それを立てることによって授業改善を皆がしていくということが目標なんですよね。

楠学校教育課長

はい、そうです。

糸川委員 それをしたことによって、どういう風に変わってきたか、どういう風に成果が出てきたかというような研究指定校だけでない他の学校も先生同士の情報交換会はされているのでしょうか。

楠学校教育課長 年 3 回、学力向上の研修を行っております。その中では、各校の取組を共有しながら進めております。めあて・振り返りは最初の思考というか、子どもたちにこの時間をどういう勉強をするのか、どういう力をつけるのかということがめあて、そして、それがどうであったかということが振り返りで、1 時間の見通しを持たそうということです。その内容が大事ですので、教員たちが日々授業改善に向けて取り組んでいるところです。

倉本教育長 めあて・振り返りにつきましては、各学校でしっかりやっただいております。ただめあての設定の仕方は質の問題がありまして、その部分については、今年度三重大学の森脇教授の指導の下、研修を深めました。また、各学校でめあてを設定してどう振り返っていくかということの確認を行いました。ちなみに、熊野市教育委員会としてはですね、3 点を重点目標としております。1 点目は、めあて・振り返りの徹底。2 点目は、読解力の育成。3 点目は、家庭学習の充実というところで、特に今回は、めあて・振り返りについて注力しております。

糸川委員 2 ページの先進校視察のところで、着実に成果をあげている取組について把握し、本市の学力向上に向けて多くの示唆を得ました、とありますけれども、どの取組が良かったと感じているのでしょうか。

楠学校教育課長 津市の香良洲小学校に視察に行っていました。課題のあった学校が学力向上ということで、施策のところにも書かせていただきましたが、習熟度別授業を進めておりました。TT ではなくて一つのクラスで 2 人の教師が授業を行うのではなく、習熟度に合った、つまり一つのクラスを二つに分けて算数の授業を行っていました。また、本市も一部の学校で習熟度別授業を取り組んでおります。子どもたちの理解度に合わせて二つのクラスに分けて授業を行っております。なかなか効果的な取組となっています。

岡本総務課長 他にございませんでしょうか。

河上市長 資料の 2 ページ、3 ページを見ていると、当然年度によってばらつきがあるんですが、傾向として言えるのは、小学校の時には残念ながら全国との差が 28 年度と 29 年度は小さくなっておりますが、それ以前は比較的大きな差であったものが、3 ページの中学生になると差が縮まっているという意味では評価はできると思います。ただ、全国平均にいないという点は課題ではあるものの、差が小さくなってきているという意味では、一定の評価はできるのですが、中学

校の時点で平均を超えるようにしていくためには、小学校の時代において、なるべく全国との差がないようにしておかないと、中学校になってから一気に3年間で追いつくことが難しいと思います。そういう意味では、小学校の先進地視察で習熟度別の授業のやり方がありますけれども、大きなクラス単位の学校はそういうやり方もあるし、複式のところでも工夫はしてもらう必要はあるんじゃないかなという風に思います。逆に言うと、中学校で平均との差を詰めてきている理由が分かれば参考になる可能性もあるんですが。その辺りをよく検討していただく必要があると思います。

岡本総務課長
大久保委員

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。
いろいろ取組をやってもらって、それなりの効果も出てきているんじゃないかと思います。やっぱり、学力をつけるというのは、本人のやろうという意欲をつけていくことが一番大事だと思います。また教師の指導力も大事だと思うし、家庭の協力も大事だと思います。その辺も十分考慮しながら取組を続けていってほしいと思います。それから、グローバル体験事業の中で、夏休み 英会話教室の参加児童生徒数がものすごく少ないですね。せっかくの機会ですから、もう少し参加者が増えるような取組をしていただけたらと思います。

楠学校教育課長

夏休みの英会話教室なんですが、以前のALTの3人が夏休み前に任用が終了しました。そのあと新しく4人のALTが任用されました。そのことも少しは影響があったかなと思います。来年度は、多くの児童生徒に参加してもらえるように工夫をしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

北野委員

ICT教育推進事業についてなんですけれども、市長を始めとする議員の方々にお力添えをいただいてたくさんの予算を計上していただいてありがとうございました。先の草津への先進地校へ視察に行かせていただいて、生徒たちが能動的な授業から受動的な授業を行っているのを見て、非常に感心しました。ICT教育推進事業は単年度で終わらない事業でないと思いますので、今後の予定を簡単に教えていただけたらありがたいんですけども。

倉本教育長

新しい学習指導要領では、プログラミング教育が必修となっております。また、今後の新しい学力という中でですね、コンピューターを自分たちの生活のためにより良く活用して行く力をつけるために、まずICT環境整備、それからICT支援員の配置、具体的に授業をどう進めるかということは、来年度、三重大と共同研究も行う予定であります。現在のところ、三重大の須曾野教授の指導の下、全校ではないんですが、主に金山小学校でプログラミング教育を先

行実施しております。今、Wi-Fi等の環境が十分でないので、それがICT機器の導入によって環境が劇的に変わりますので、そこでどう取り組んで行くかということは、大きな使命だと思っておりますので、三重大学の力を借りながら、効果的な指導法を県内外で探りながら進めて参りたいと考えております。

糸川委員

今、小学校の方でも英語の授業が必修となっていて、このICT教育が入ってくるとなると年間を通しての授業数が決まっていますよね。そうすると、新しい授業が増えてくることによって減っていく授業はあると思うのですが、どういう授業が減るのでしょうか。

倉本教育長

週の授業時数は、実際増えております。そして、英語をどのように入れていくかということで、モジュールと言って、小学校で1日15分ずつ行った場合、3日間で45分、それを1単位時間としてカウントします。英語が15分ずつやりにくい場合は、例えば国語を1日15分ずつ3日間やって1単位時間にして、それで浮いてきた時間を英語に回すとかですね。それぞれ今工夫をしながら試験的に行っているところでございます。子どもたちの負荷は大きなものになっている状況です。そして、新しい道徳が教科化になり、3年生・4年生が外国語活動。5年生・6年生が教科英語。そして、プログラミング教育が入っていくということですね、効率よく効果的な各学校の取組みの生成が必要となってきます。

河上市長

結局、トータルの子どもの学びの時間は増えない中で、それらが入ってくるということですか。

倉本教育長

トータルの時間は増えてきます。

河上市長

私もICTに関してはこれまでだいが教育委員会に宿題を出してございまして、先進地を十分たくさん見て来てくださいとお願いをしてきました。この草津市の常盤小学校を探し出して行ってもらったんですが、プログラミング教育は、論理的な思考を養う面では良い教育だと思うんですけど、おそらくそれは手段であって、最終的にはタブレットを利用して全教科における学力向上に結び付けていく必要があるのではないかなという風に思っております。その辺は、始まるんですけども、さらにそういう面で先進的に且つ成果を出しているところについてはですね、引き続き教育委員会で先進地視察として見に行ってもらって、プログラミング教育のレベルアップとICTを使った、そもそもの学力向上ということについても努力をしていただきたいと思います。参考までに言いますと、学校だけではなくて、このようなことを好きな子どもは学校の授業では物足りなくなるので、先ほど言ったように生涯学習の方でIoTを学べる時間を作って、そちらの方にもどんどん伸ばせるような仕掛けも来年度用

意しております。

岡本総務課長 ありがとうございます。次に移らせていただいてもよろしいでしょうか。

それでは、6 ページの重点施策 2 保護者や地域との連携（子どもたちが安心して学べる学校にするために）の進捗状況と現時点の成果・課題につきまして、説明させていただきます。資料につきましては、13、14 ページでございます。めざす姿は地域との密接な連携のもと、課題の克服に取り組んでいる学校。地域の方々と関わり、見守られながら、安心して学校生活を送る児童生徒となっております。指標は、全小中学校で、地域と連携した防災訓練や地域人材を活用した授業を年 2 回以上行う。現時点の達成状況は 100%となっております。

取組事業といたしまして、まずは、いじめ対策事業でございます。取組状況といたしましては、いじめ問題対策連絡協議会の開催。6 月 26 日に第 1 回会議を行い、関係機関・団体とともに効果的な啓発や対策について協議いたしました。次に、いじめの問題を含むアンケートの実施につきましては、児童生徒対象のアンケートを実施し、未然防止等に努めました。また、保護者対象、学校評議員・学校運営協議会委員対象のアンケートも実施し、いじめ問題への学校の取組状況について確認しました。QU 調査の実施につきましては、全小中学校で実施し、また、木本中・有馬中においては、2 回目の QU 調査を実施し、前回からの変容や新たな課題等について分析し、より良い学級づくりに生かしました。いじめ対策事業研修会でございますが、11 月 2 日に、おぐろ法律事務所の小黒弁護士をお招きし、「法律家の立場から見たいじめの問題について」をご講義いただきました。現時点の成果・課題でございますけれども、児童相談所、警察署、福祉、青少年育成市民会議、保護者代表等の関係者に学校や教育委員会の取組やいじめの現状について理解していただくとともに、地域や各団体との連携が重要であることを確認しました。児童生徒へのアンケートから明らかになる事案もあり、未然防止、早期発見、早期対応に活用しました。アンケートから保護者の学校教育活動への思いや願いを把握するとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に活用しました。法律家の立場から見たいじめの問題についての講演では、いじめは人権を侵害する重大な法律違反行為であることなど、いじめの問題に取り組むための新たな視点を学びました。QU 調査実施後の分析と学級づくりへの生かし方について、講師を招いた研修会を実施し、教員のさらなるスキルアップを図る必要があります、としております。

7 ページに入ります。コミュニティ・スクール推進事業でございます。取組状況でございますが、学校運営協議会の開催につきまして、新鹿小・中学校では年 3 回の開催予定でございます。五郷小・中学校では年 4 回開催予定でございます。次に、地域と連携した取組でございますけれども、新鹿小・中学校につきましては、5 月 19 日の防災を考える会のほかご覧の取組を実施いたしております。五郷小・中学校につきましては、小中一貫教育についての協議のほかご覧の取組を実施しております。現時点の成果・課題でございますけれども、どちらの中学校区においても、保護者、地域の協力のもと、地域に根ざした豊かな自然体験活動や小中が連携した様々な学習を実施しました。新鹿小・中学校においては防災に関する取組、五郷小・中学校においては、地域の歴史を題材とした劇に共同で取り組むなど、それぞれの地域の課題や文化に基づいた取組がなされました。2020 年度からは、市内の全小中学校をコミュニティ・スクールとすることから、両中学校区での取組の成果や課題をすべての学校で共有し、それぞれの地域の実態に応じた学校運営協議会の在り方を検討していく必要があります、としております。

8 ページにまいります。学校防災対策推進事業でございますが、取組状況につきましては、学校防災対策推進研修会を開催し、三重大学の川口准教授をお招きいたしております。第 1 回は、6 月 21 日に 5 月 19 日新鹿小中学校で実施した「防災を考える会」～地域とともに取り組む防災教育～の還流報告を行い、川口准教授より専門家の視点からアドバイスをいただきました。第 2 回は、10 月 26 日に木本中において、中学生が地域と連携し、段ボールを使った簡易間仕切り作り体験や簡易担架作り等の実践的な避難所運営訓練を実施し、地域防災推進の一役を担いました。第 3 回は、2 月 19 日、すでに実施しておりますけれども、木本中において中学 2 年生・保護者・自主防災組織の方を対象に避難所運営ゲーム（HUG）を行い避難所運営のシミュレーションを行いました。また、30 年度の事業の総括を行い、来年度に向けての課題を設定します。現時点の成果・課題でございますが、実際に災害が起こった時の避難所運営について、実践を通して学習することができました。また、災害時にそれぞれの立場でできることを確認することができました。中学生が地域自主防災組織や保護者と共に避難所運営等の防災学習をすることで、自分の役割を自覚し、防災対策についての意識も高まりました。3 回の研修会に各学校の学校防災対策推進委員が参加することで、研修会で得た知見を自校で還流し、防災教育を進めていきます。今後、さらに地域自主防災組織や保護者と連携した研修会を開催することが必

要です。そのために地域住民が参加しやすい日時を設定する必要があります、としております。

9 ページに入ります。防災教育・各種訓練等の充実でございます。取組状況でございますが、「防災ノート」、「ワークシート」等を活用し、持ち帰りを含めた学習を行うことで学校・家庭が連携した防災教育を進めております。危険箇所調べ実施校につきましては、16 校中 12 校が実施いたしております。防災マップづくり実施校は、16 校中 15 校。保護者や地域防災組織と連携した避難訓練等の実施校は、全 16 校で行っております。現時点の成果・課題でございますけれども、防災マップづくりを行っている学校が昨年度の 7 校から 15 校に増え、児童生徒の防災意識の向上につながりました。今後、土曜日の授業や授業参観日等に保護者や地域住民参加の避難訓練を実施することにより、学校・家庭が連携した防災教育をさらに推進する必要があります。全ての学校で保護者や地域防災組織と連携した避難訓練等を実施することができました。今後、参加者をさらに拡大することが必要です、としております。

10 ページにまいります。地域人材等の活用でございます。取組状況ですけれども、学校における囲碁教室事業につきましては、日本棋院の羽根プロをはじめ、地元の愛好家の方 4 名に講師となっただき、学校における囲碁教室を実施しました。実施校は、ご覧の学校でございます。特別非常勤講師による授業でございますけれども、様々なスキルを持った地域の方に講師を依頼し、授業をしていただきました。ダンスのほかご覧の事業でございます。まちな人材活用事業につきましては、ご覧の教室を実施しております。地域ボランティアの活用につきましては、ご覧の事業を実施しております。現時点の成果・課題でございます。すべての学校で、地域の人材を活用した特色のある授業が行われました。講師の専門的なスキルを生かすことで、子どもたちにとって魅力ある授業づくりを行うことができました。授業の内容には、地域の伝統文化や地場産業なども沢山あり、子どもたちにとって、郷土の素晴らしさをあらためて感じることでできる体験となりました。今後は、地域のボランティアによる学校支援をさらに拡大していく必要があります。

以上が重点施策 2 保護者や地域との連携の進捗状況と現時点の成果・課題につきまして、説明、報告させていただきました。ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。

高見委員

防災についてなんです、避難所運営などを取り組まれているようなんです、その前にですね、学校にいる時点で災害が起こった場合に保護者への連絡はどのような形で取られるようになっているの

でしょうか。

楠学校教育課長 基本的には学校の連絡網等で行います。例えば、南海トラフを想定した場合、学校で待機という形になると思います。引き渡し訓練も実施しているんですが、そういった中で連絡が取れる状況かというところは、なかなか難しいかも知れませんが、事前に保護者に伝えていくという風に考えております。

高見委員 一斉メールなど何らかの形で連絡が取れるようにしていただけるのかなという確認をさせていただきました。

岡本総務課長 ありがとうございます。他にございませんか。

河上市長 資料の 13 ページと 14 ページについて、真ん中の 8 番 9 番が欠席までしているということなので、これだけでは分かりませんが少し程度がひどいのかなと思います。少なくともいじめはこれだけではないのではないかと思います。14 ページを見ると基本的に全て解消されているということで、とりあえずの対応は解消されているということで良いんですけども、私は実態は分からないのですが、構造的にいじめられっ子といじめっ子というのは、成り立ってしまうと一時的ないじめは解消されても、また復活するということがあり得るので、そのフォローの体制はどうなっていますか。

楠学校教育課長 この 16 件については、解消されていますが、基本的にはいじめ事案が発生してから 3 か月を目途に教職員で必ず見守りを行います。

河上市長 3 か月目には必ず何らかの形で調査をするということですか。担任が見つけた以外のいじめは、本人からの申し出があってわかるケースがありますよね。そういう場合は、いじめの程度が以前よりも軽くなれば、本人は我慢していると。客観的に言えば、いじめの状態でも本人が我慢していれば、これは表に出てこない可能性があるので、3 か月目のフォローというのは具体的にどうしているのですか。

楠学校教育課長 担任がしっかりと見守りながら、3 か月後に報告をもらうということになっております。

糸川委員 いじめ問題で、子どもを守るということで今ニュースでも話題になっていますが、熊野市では家庭内での間で、問題のある事案は上がってきていないのでしょうか。

倉本教育長 野田市の児童虐待とかそういった問題でしょうか。

糸川委員 はい。

倉本教育長 今非常に、教育委員会や福祉事務所そして児童相談所、警察署の連携が上手くいっている状態であります。野田市の事案を受けて、教育委員会と福祉事務所、児童相談所、警察署との連携会議を行いました。何を行ったかと言うと、現状確認と今後の取組の確認。各学校には校長会で、まず各校の実態の確認をお願いしました。再度

確認するよというこで、疑わしい場合は、通告をすぐに行うと、これは児童虐待防止法で定められております。まず、福祉事務所に通告。急を要するものについては、児童相談所に直接通告する。場合によっては教育委員会にも連絡が来ますので、ケースによっては、教育委員会から直接警察に連絡する場合もございます。過去にもそういう事がありました。そういった調査につきましては、特に福祉事務所がたくさん抱えていただいておりますので、そういった内容を基に連携会議等を行って、小さなことでも協議するということはしておるんですが、更なる連携を進めなければならないと思っております。

楠学校教育課長

今学校での認識は、いじめの認知と同じでございます。身体的なものとか虐待が疑われる場合は、学校から通告をすることとなっております。そういった共通認識を基に行っております。いじめの方もこれはいじめに該当しないのではないかと過去にもありましたが、本人が苦痛と感じていればどんな些細なことでも、いじめの認知件数として含めます。各学校の教職員全体で、アンテナを高く張って取り組んでおります。

河上市長

いじめについては、子どもが学校へ来る来ないでまず一つの目安として、どうなっているのかと考えますよね。学校に来ての場合でも、子どもたちの自己申告やアンケート等で見つけることが出来ます。児童虐待とかネグレクトの問題は、学校に出て来て、外見的に怪我をしているとか衣服が何日も変わらないとか、そういう外見的なものがないと実はなかなか見つけられないということがあって、近所の人通報で、子どもがいじめられているみたいだということがあって見つけられる場合もあります。見つかった後は、先ほど教育長が言われたように関係機関の連携が上手く取れていると思います。その問題が起きた時の情報の共有だけではなくて、その後のフォローを関係機関が連携しながら取り組んでます。家庭の問題ですので、一気に解決するということは難しいのですが、全般的には、少なくとも把握している問題については、比較的うまくフォローできているのではないかなということでございます。ただ、虐待やネグレクトが100%行政側で把握できているかという問題は、正直まだ不明な部分は当然あります。近所の方々が通報してくれないと分からないことや調べようがないものがありますので。なかなか難しい問題はありますが、少なくとも関係機関による対応は比較的連携は取れている、進められているのではないかなという私の感想でございます。

岡本総務課長 他にございませんか。

それでは、次の重点施策3にまいります。11ページでございます。子どもの読書活動の推進の進捗状況と現時点の成果・課題でございます。資料につきましては、15ページから19ページでございます。めざす姿は、子どもが未来への夢や目標を抱いて自らを高めるために、自ら進んで読書に親しんでいる。指標といたしまして、1か月間に1冊も本(雑誌、マンガを除く)を読まなかった割合が、小学生2%以下、中学生9%以下。現時点の達成状況につきましては、平成30年度調査では、小学生9.17%、中学生15.79%となっております。取組事業といたしまして、子どもの心づくり事業(読み聞かせ)でございます。取組状況につきましては、おはなしなあには月2回、幼児のおはなし会が月1回。おはなしわくわくが月1回、参加者延べ601名となっております。昨年度に比べ「おはなしなあに」の参加者が増加しております。健康・長寿課が毎月実施しているブックスタート事業に、司書職員1名、ボランティア1名が参加しています。この事業への参加者にも図書館の取り組みのチラシを渡すなど、図書館事業の参加者を増やす呼びかけを行っています。現時点の成果・課題でございます。ボランティアの努力等により参加者が昨年度比66.94%増加しました。市広報紙、Webページ、保護者のネットワーク等を通じ、参加者を募る必要があります。ブックスタート事業では、司書1名、ボランティア1名が協力を行うとともに、図書館の取組等を紹介することができました。より効果的な支援について、健康・長寿課と協議を進める必要があります、としております。

12ページにまいります。学校との連携でございますが、昨年度に引き続き、1月に読書習慣に関するアンケートを実施し、1か月間にどの程度の読書をしたか等の調査を行いました。団体貸付の際の選書について、司書が積極的に関わっています。小・中学校へのボランティアの派遣について、8校へ14回、延べ86人の派遣をしております。図書館見学会の実施について、認定こども園木本保育所ほか、9回、延べ138名の参加でありました。現時点の成果・課題でありますけれども、読書習慣に関するアンケートの結果、1か月間の不読者が小学生で29人から52人、中学生で34人から51人と増加しました。読書をしなかった理由として、「他にしたいことがあったから」「読むのが面倒だから」「普段から本を読まないから」の割合が増えています。学校への団体貸付、ボランティアの派遣をさらに推進し、本に触れる機会を増やす働きかけが必要です。学校との連携を深めるため、小中校長会にて①団体貸付制度の利用、②読書ボランティアの派遣、③図書館見学会の開催、④図書カードの作成等を周知し

ます。団体貸付については、小学校で全校利用されていますが、中学校では7校中3校のため、中学校の利用促進を図る必要があります。秋の読書週間にあわせて図書館見学会を開催しています。図書館までの交通手段の確保が課題です、としております。

13 ページにまいります。取組事業につきましては、ボランティア活動活性化事業でございます。取組状況につきましては、登録ボランティア数は29名となっております。昨年は24名でございました。ボランティアと共に活動する図書館職員が研修に参加しました。研修内容につきましては、「利用者に対するサービス向上について」などについて、でございます。「おはなしなあに」を担当しているグループは、月1度、例会を開いています。また、開催ごとに反省会を開き、次回開催に向けたプログラムの検討、選書、読み聞かせの練習などを継続して行っております。現時点の成果・課題でございますけれども、ボランティアの増員と養成を図るため、ボランティア活動報告会を行いました。6名が見学会に参加しました。今後もボランティアとして活動いただくよう働きかけが必要です。「読み聞かせ」を担当しているグループの協力により、「おはなしなあに」への参加者数が昨年度比113.89%増加しました。

次に、読書感想文コンクールでございます。取組状況でございますけれども、1月5日から26日までの間に募集し、以下の応募がありました。平成30年度、小学生が60名、中学生が0名でございます。現時点の成果・課題でございますが、応募数が昨年度比43.93%減少しました。特に中学生の応募がない状況が昨年度から続いており、どのようにして応募者数を増やすかが課題です、としております。

最後に14ページの蔵書整備事業でございます。取組状況でございますが、市立図書館協議会委員の意見を聞きながら、司書等職員による選定と来館者のリクエスト等により、週1回程度の頻度で購入をしております。1月末現在の蔵書の合計が173,103冊となっております。図書の購入にあたっては、①独自の”熊野らしさ”を向上させるため、市の歴史・文化、特産物、施策等に関わるものを選定する。②利用者の興味志向に沿うものを選定する。③図書館として備えるべき参考図書を選定する。④読者の年齢層やジャンルが偏らない等の点から選書することで、熊野市の図書館としての独自性を出しました。現時点の成果・課題でございますが、今後も購入する書籍の精選を図っていく必要があります。熊野郷土史コーナーやイタリアコーナーの常設により、熊野に関係する書籍をわかりやすく展示しております、としております。

以上が重点施策3子どもの読書活動の推進の進捗状況と現時点の成果・課題につきまして、説明、報告させていただきました。ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。

河上市長

もし分かれば教えて欲しいのですが。小学生も中学生も本を読まなくなっているという傾向ですが、これは熊野市だけなのか、おそらく全国的なものもあるのではないかと思います。その辺りの知見はないんですか。

雑賀社会教育課長補佐

国の調査も同様の項目でやっております。平成30年度の値はまだ出ておりませんが、24年度と29年度を比較すると、小学生に関しては若干悪化しております。中学生に関しては、少し伸びております。資料の16ページですが、今把握しているのはこの程度でございます。

河上市長

先ほど言ったように、小学生の学力向上が非常に大きな課題だということを考えると、この小学校における不読率が大きくなっているということは、やはり心配な点なので、本を読むことが全てではないにしても、学力向上の必要条件の一つではあると思うんです。ですからこの辺は、出来ることは限られると思うのですが、読んでもらえるような努力をしていただきたいと思います。

雑賀社会教育課長補佐

資料の中にも出てまいりました、先般図書館協議会の会議を開催しました。この会議は小中学校の校長先生の代表の方、また、ボランティアをされている方、学識経験者の方等で構成されてますけども、やはり子どもに対する読書推進の取組を更に進めて欲しいという意見をいただいているところでございまして、やはりその中でも学校での読書活動を推進することということで、そのために我々ができることといたしまして、図書館の団体貸付の推進でありますとかボランティアの派遣をより一層周知をしまして、進めて行くということを考えております。

倉本教育長

読書週間につきましては、小学校から劇的に良くなるということにはなくてですね、幼児のおはなし会、おはなしわくわく等で子どもたちが小さいころから本を読む環境、読み聞かせをしてもらう環境、こういった経験を重ねていく必要がございますので、小学校の発達段階では、低学年で図書館の利用であるとか、本の借り方、本の選び方を学ぶ訳ですが、より丁寧に行っていかなければならないと思っております。ただ一方ではですね、先ほど申したように学習内容と教科が増えてきますので、その辺が圧迫されているという状況もあります。

河上市長

子どもたちが自分の目の前に面白そうな本がきたら見ると思っています。ですから本を示して読むか読まないか。本の内容がどういっ

たものかをかいつまんで説明して、すぐに分かるようなものを提示しないと興味を示さないとと思うので、そういう面では大変かも知れませんが、子どもたちが飛びつくような工夫が必要になってくるかと思っておりますので、細かな改善の積み重ねの形が見えるように、次は示していただけるとありがたいと思っております。

大久保委員

図書館へ来ていただいている方ですが、同じ人が何回も来ているような傾向があるのではないかと思います。保護者が付いてこないと来れませんので、保護者に時間的余裕がある方が子どもを連れて来られていると思います。今保育所でも読み聞かせをしていただいている、努力はしてもらっていると思うんですが、できるだけ多くの子どもたちに読む機会を作ってもらおうという努力が要するのではないかと思います。子どもたちの活動を見ていると、部活などで大変忙しくて、家に帰って本を読む時間がないかも知れませんが。できれば、学校で読む機会があればと思うのですが。

雑賀社会教育課長補佐

ありがとうございます。先ほど、大久保委員がおっしゃられました、おはなしなかに、幼児のおはなし会、おはなしわくわく、これらについては、それぞれ対象が乳幼児、また小学校就学前、小学校低学年というふうに区切っておりますので、同じ方がいろんな会に参加しているとは思えないのですが、私も図書館委員の意見等を聞きますと、子どもは小さいうちは保護者も子どもを連れて来ますが、一定の年齢に差し掛かると働きに出られる傾向がかなり強いといったことで、おはなしなかにの参加者は非常に多いのですが、幼児のおはなし会以降に関しては、少なくなってしまうのかなというようなお話をお聞きしております。

河上市長

前に、朝の時間に読書をするという学校で、それは今でも続いているのですか。

楠学校教育課長

各学校で朝の読書活動を行っております。各学校では図書委員会が設けられておりまして、子どもたちがそこで本の貸出しとか新刊の図書の整備などを行っているところです。以前、糸川委員からご意見をいただきましたが、各グループを作って、自分が読んでみたい本を選んでそれをプレゼンして競い合うビブリオバトルを行っている学校もございます。そういった取組を広げて行き、本を読むきっかけ作りが必要になってくるのではないかと考えております。

倉本教育長

朝の読書ですが、多くの学校で取り組んでおります。ただ、読書習慣の定着に繋がっているかと言うとそうではない傾向にあります。どちらかと言うと、朝の静かな環境で本を読むことによって、1限目の授業に落ち着けてスムーズに入っていくという意味合いの方

が強いように思います。

大久保委員 図書館につきましては、新刊が入るときは、新聞に掲載されていますよね。最近入れてもらっている本は以前よりも良くなったと思います。

雑賀社会教育課長補佐 ありがとうございます。毎週出る新刊の目録の中から、司書の職員を中心に選書をしまして購入しております。毎週頭を悩ませて、考えて選んでいただいております。

岡本総務課長 ありがとうございます。

それでは、次の重点施策 4 に入らせていただきます。生涯学習環境の整備の進捗状況と現時点の成果・課題でございます。資料は 19 ページ、20 ページでございます。めざす姿は、市民一人ひとりが生涯にわたって学習や文化芸術等に親しみ、自己実現を果たしながら生きがいを感じ心豊かに生活しています。指標につきましては、熊野市立図書館の企画事業、各種生涯学習事業の評価が 4.8 (おおむね満足) 以上でございます。現時点の達成状況は、4.81 でデータ件数は 138 でございます。取組事業といたしまして、各種生涯学習講座でございます。取組状況でございますが、子ども囲碁教室、初歩のイタリア語教室など 11 講座を開催 (継続) しています。特に子ども囲碁教室については、講師の協力をいただいて回数を増やして実施しています。初歩のイタリア語会話教室については、市職員の自主的な参加等により参加者数が増加しております。ご覧のような講座を開催しております。受講者数は延べ 1,579 名となっております。現時点の成果・課題ですけれども、多くの市民に生涯学習の機会を提供しました。各種教室の参加者の満足度は高い数値を示していますが、参加されたことのない方にも関心を持っていただけるような、新たな講座の開設を検討する必要があります。山間部や海岸部にお住まいの方で、参加したくてもできない方もいるため、公民館活動で「まちの人材活用事業」を利用するなど、地域でも生涯学習活動が積極的に行われるよう事業の周知等を通じて働きかける必要があります、といたしております。

次に 16 ページでございます。市民文化祭の取組状況につきましては、10 月 12 日から 10 月 14 日にかけて、市民文化祭「展示部門」を開催しました。出展者数が 309 人、入場者数が 600 人ございました。それから、12 月 9 日、1 月 27 日に「ステージ部門」を開催しました。出演者数は 274 人、入場者数は 637 人ございました。現時点の成果・課題ですけれども、多くの出展・出演があり、市民の文化芸術活動など生涯学習に対する意欲の向上につながりました。展示部門は、1 会場で開催し、飾り方も工夫しました。ステージ部門

は、集客広報に力を入れました。そのことにより、入場者数が、昨年度比で展示部門で 12.99%、ステージ部門で 9.45% 増えました。

次のまちの人材活用事業でございます。取組状況ですけれども、ダンス教室、写生指導、合唱指導などの登録人材を地域（学校）に派遣しています。登録者数は 112 名、派遣人数は延べ 32 名、受講者数は延べ 761 名となっております。現時点の成果・課題ですけれども、派遣人数、受講者数は増加しているものの、小・中学校での活用が主となっております。生涯学習講座や地区公民館での活用等、広く地域住民を対象とした社会教育での活用を増やすことが課題です。登録講師の意志確認を進めると共に、新たな人材の登録を目指す必要があります、といたしております。

17 ページの読書推進事業にまいります。取組状況ですけれども、近代文学作家を題材にした文学講座（月 1 回開催）、季節や話題に応じたテーマ展示や企画展を継続的に実施するとともに、蔵書の計画的購入を図っています。文学鑑賞講座の受講者数は 1 月末現在で延べ 291 名となっております。テーマ展示はご覧のようなことを取り組んでまいりました。特集コーナーでは、「図書館福袋」1 袋 3 冊入りの福袋を作成し、一般用 50 袋、児童用 45 袋の貸出しがありました。「手づくり絵本教室」ですけれども、絵本や本に親しむ心を育てるとともに、図書館の利用促進を図るため、「手づくり絵本教室」を開催いたしております。現時点の成果・課題でございますが、文学講座の開催に加え、企画展の開催や蔵書の充実により、市民の読書に対する興味関心が高まる取組となりました。月ごとのテーマ展示は、時勢や季節に応じた内容を含めるなど、常に見直しが必要です、といたしております。

以上が重点施策 4 生涯学習環境の整備の進捗状況と現時点の成果・課題につきまして、説明、報告させていただきました。ご意見等ございましたら、よろしくお願いたします。

河上市長

企画展について何か出来るのであれば、今年は世界遺産登録 15 周年なので、それに関連する取組を生涯学習であるとか図書館事業でやっていただいたらありがたいと思いますので、是非ご検討をお願いします。

雑賀社会教育課長補佐

市民大学では、年 6 回の講座を持ちますけれども、市として世界遺産に関連するような内容を中心に検討しております。

岡本総務課長

他にごございませんか。

それでは、最後の重点施策 5 に入らせていただきます。18 ページでございます。重点施策 5 生涯スポーツの普及と促進の進捗状況と現時点の成果・課題でございます。資料は、21 ページから 23 ページ

でございます。めざす姿は、市民一人ひとりがライフステージに応じてスポーツに親しみ、週に 1 回以上スポーツを通した健康づくりやふれあい交流に取り組んでいます。指標といたしまして、まちづくりアンケートにおいて、スポーツ施設や公民館等で週に 1 回以上スポーツを楽しんでいる割合が 13%以上としております。現時点の達成状況は、平成 30 年度で 23.1%となっております。取組事業、市民健康スポーツ祭の開催でございます。取組状況でございますが、11 月 11 日に「第 17 回市民健康スポーツ祭」を開催いたしました。参加者数の推移は、記載した通りでございます。平成 30 年度はおよそ 1,500 人で行いました。昨年度から、踊りなど来場者が単に観るだけのプログラムにかわり、様々なスポーツを体験できるブースをトラック周りに設置しています。また、今年度から、熊野市身体障害者（児）福祉連合会が協力団体として参画しています。現時点の成果・課題でございますが、新たな取組として、高齢者向けのプログラムを取り入れたり、障がい者がスポーツに親しむブースを設置したことで、年齢や障がいの有無に関係なく幅広い方に楽しみながら体を動かしてもらうことができました。運営方法について、更に精度を高める必要があります。

次に 19 ページのスポーツ推進委員協議会活動の活性化総合型地域スポーツクラブの育成事業でございます。取組状況でございますが、市内 2 つの地域スポーツクラブにより、健康ストレッチやユニカール、そふとエアロビクスなど、それぞれ 10 種目のスポーツに親しんでいます。くまの健康スポーツクラブの会員登録数は 369 名。ふれあいスポーツクラブ紀和の会員登録数は 74 名となっております。健康ストレッチ教室の予定人員を上回る人気が続いており、ヨガなど他の種目の参加者の増加にもつながっています。1 月 27 日に紀和町の 70 から 80 代の高齢者を対象として、スポーツ推進委員指導によるボッチャ体験教室を開催しました。ボッチャの体験は、3 月 15 日新鹿町の高齢者サロンでも開催予定をしております。現時点の成果・課題でございますが、年齢や障がいの有無にかかわらず楽しめる、利用者のニーズに応じた幅広いメニューの検討が課題です。スポーツ推進委員によるボッチャ体験教室を初めて開催しました。参加者から「老人クラブで用具を購入して活動してみたい。」との声をいただいています。ボッチャは、年齢や障がいの有無を問わず、気軽に楽しめるスポーツとして、今後地域や団体への普及活動を行っていく必要があります、としております。

次のスポーツ少年団育成事業でございます。取組状況でございますが、5 月 6 日に熊野市スポーツ少年団結団式・親睦大会を開催しま

した。11月18日には、熊野市・南牟婁郡交歓競技大会を行っております。登録数は12団で215名、指導者は35名となっております。現時点の成果・課題につきましては、子どもの数の減少により、団の存続が難しくなっています、といたしております。

次に20ページの高校総体の開催及び国体開催体制の構築事業でございます。取組状況といたしまして、昨年8月2日から12日に全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技を女子51チーム、男子42チームが参加して開催しました。チーム監督・選手総数は1,710人、観客総数は延べ26,800人となっております。7月18日に、平成33年度国民体育大会の三重県開催及び本市でのソフトボール（成年女子）、ラグビーフットボール（7人制成年男子）の開催が正式決定されました。9月19日に三重とこわか国体・三重とこわか大会熊野市実行委員会を設立いたしました。9月30日から10月2日に福井県にて開催された本年度の国体の視察を行っております。現時点の成果・課題につきましては、全国高校総体は、他団体等の協力もあり、スムーズな運営ができました。国体開催に向けて、引き続き、競技施設の環境を整えるとともに、福井国体視察の内容を踏まえて競技団体と連携し、必要な準備を進めなければなりません。ラグビーフットボール競技のプレ大会として、平成32年4月に「関西セブンス」の開催を予定しており、国体の開催を見据えた準備が必要です。各種イベントで、本市開催競技についてのPRブースを設けるなど、積極的に広報活動を行い、市全域で開催に向けた機運を高めていく必要があります。今後、諸準備をいかにして効率的、効果的かつ計画的に進めるかが課題です、といたしております。

以上が重点施策5生涯スポーツの普及と促進の進捗状況と現時点の成果・課題につきまして、説明、報告させていただきました。ご意見等ございましたら、よろしく願いいたします。

特にないようでしたら全体を通してでも構いませんので、よろしく願いします。

糸川委員

読書推進事業で、図書館福袋というものがありませんでしたが、これは1月のみの実施なんですか。

雑賀社会教育課長補佐

はい、1月のみの実施でございました。

糸川委員

結構な本の貸出しがあるように思われますので、年に1回ではなくて、奇数月に実施してみるとか、こういうような企画も良いのではないかと思いました。あと、図書館の入口に司書さんのお勧めの本を並べてくれていると伺ったんですけども、図書館に行った人には分かりますが、図書館を利用しない人にはそういうことをしていることが分からないので、そういう内容を広報に載せてみるとか、

ビブリオバトルの内容で優秀チームのお勧めの本も広報に載せてみるとか、図書館を利用しない人にも図書館での活動がわかるような方法も良いのではないかなと思いました。

雑賀社会教育課長補佐

ありがとうございます。今後の仕方も含めて検討させていただきます。

大久保委員

いろいろな大綱に沿って事業が組まれているのですが、全国学力テストがあって点数についていろいろと言われていますが、教育全体を考えていますとそれだけではないと思うんですね。前に運動能力テストの結果をいただき、熊野市は全国平均を上回っていると、本当に素晴らしいことだなと思いました。そういう体力面のこともありますし、また今の時代は暮らしが変わって来ていると思います。これまでの常識が非常識になっていくようなこともあるのではないかと思います。いろんな面で柔軟な考え方の能力を持った人間が大事かと思います。市長のお話にもありましたが、学校以外の取組によって、子どもを育てていくことも非常に大事で、それがこれからの社会に生きていく人間の育成に役立っていくと思いますので今後の事業の取組について、より励んでいただきたいと思います。

岡本総務課長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

教育委員全員

無し。

岡本総務課長

ないようですので、事項書の2(2) その他ですが、事務局からでございますが、今回で今年度の会議は終了となります。委員の皆様、市長からいろいろなご意見等を頂きました。これまでの成果・反省・課題を踏まえまして、これからの事業に反映させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、本日の事項につきまして終了いたしたいと思います。平成30年度第3回熊野市総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。